

患者に直接説明も

病院の 実力

大阪編38

病理診断

主な病院の治療実績をまとめた「病院の実力」。今回は、検査や手術で摘出したがんなどの病巣を顕微鏡

を使って診断する「病理診断」と病理医を特集する。

調査では、対象を日本病理学会の認定・登録708施設に限ったため、回答施設の9割が常勤の病理医を置いていた。ただ、全国の一般病院7600施設に対し、病院に勤務する病理医の数は2000人足らず。常勤の病理医が不在の施設の方が多い。

病理医は通常の病理診断のほか、手術中にかんの悪

性度や広がりなどを調べる「術中迅速診」や、亡くなった患者の死因や治療効果を調べる病理解剖も担う。症例検討会に参加し、医師や看護師らと共に治療方針を話し合うこともある。

最近では、がんの原因やどの薬が効くかを調べたり、がんの進行速度を予測したりする検査にもあたるとなると、病理医の役割と重要性は増すばかりだ。

従来、患者が病理医と接

＊全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

する機会はほとんどなかった。それが今は、病理診断の結果を病理医が患者に直接説明する施設も増え、全国調査では3割を超えた。この中には「病理外来」を開設する施設もあり、今後の広がりが予想される。もっとも、こうした施設の多くは複数の常勤病理医を抱える。病理医が少なく余裕がないところでは、外来の体制を整えるのが難しいのが現状だ。